



Good News for Japan **とぎのこえ**



「あなたが、健康であるように」 張田 直子

「あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています。」

(ヨハネの手紙三 2節)

この文章は、二千年ほど前に書かれた新約聖書の中の手紙の一節です。その当時一般的に使われていた手紙の様式に従って書かれていると言われています。

現在でも、私たちは手紙の冒頭に、「御健勝のこととお慶び申し上げます」とか、末尾には、「御自愛ください」とか、「等、相手の健康を願う言葉を使います。いつの時代にも、「すべての面で恵まれ、健康であること」は、

人の悲願であるようです。一九四八年に世界保健機構(WHO)が設立と同時に発表した憲章の前文において、「健康」を次のように定義しています。

「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」(公益社団法人 日本WHO協会訳)この憲章をもとに、各国の政府は健康に関する様々な取り組みをおこなっています。

その後、一九九八年にこ

の原文の改正案が提出されました。総会での決定には至りませんでした。次のようなものでした。

「健康とは身体的・精神的・霊的(spiritual)・社会的に完全に良好な動的状態であり、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」

日本WHO協会は、ホームページで、霊的という言葉が付加された理由をこのように説明しています。

「spiritualは、人間の尊厳の確保や生活の質を考えるために必要で本質的なものだという観点から、字句を付加することが提案されたのだと言われています。」

協会は、この説明の最後に、「日本語では、mentalもspiritualと同じく精神的と訳してしまいそうになるのは、宗教に希薄な国民性のためかも知れません。ともあれ、どう翻訳すべきかを考えてみることも、私たちが『健康とは何か』を考えるヒントのひとつになるかも知れません」とコメントを加えてくださっています。(文責 事務局 松村氏)

新約聖書には、「健康」という言葉が、数回出てきますが、イエス・キリストは、この言葉を次のような場面で使用されました。

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

イエス様の時代の宗教者たちは、イエス様が、彼らが忌み嫌う人々を弟子にしたり、罪人とみなされるような人と共に食事を摂っていたりしているのを見て、つぶやきました。そのことを知ったイエス様は、

「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である」と

と反論したのでした。イエス様は、社会で見捨てられた人々、病に苦しむ人々、心身の障害に苦しむ人々に寄り添い、苦しみを共にしました。イエス様は、愛である神様を知らせ、ご自身の命を与え、十字架に架かり、私たちに命への道を開いてくださいました。神様と人との良好な関係を妨げる原因であった私たちの罪は、十字架によって赦されたのです。

冒頭の聖書の言葉の前に、「愛する者よ、あなたの魂が恵まれているように」と

とあります。聖書は、私たちを創造された神様と私たちとの関係が十字架によって修復され、それによって

もたらされた恩恵にあずかることこそが「健康」の前提である、と教えています。たとえ、肉体的に、精神的に、社会的に弱さをもっていても、イエス・キリストによって神様との関係が修復されたなら、「健康」に生きることができるようになります。

さて、救世軍では、六月五日を医療サンデーと定め、医療の働きのため、医療従事者のために祈ります。東京では、その日曜日の午後、清瀬市にある救世軍清瀬小隊(教会にあたる)において「健康的生き方講座」を計画しています。医師、病院相談員、病院チャプレンがそれぞれの立場から「健康的に生きる」ことについて考察します。

新緑が美しくなり、色とりどりの花が咲き、自然の営みのすばらしさと不思議さを感じさせてくれる季節、私たちが、聖書に示された健康的な生き方、すがすがしい生き方をしたいと願います。

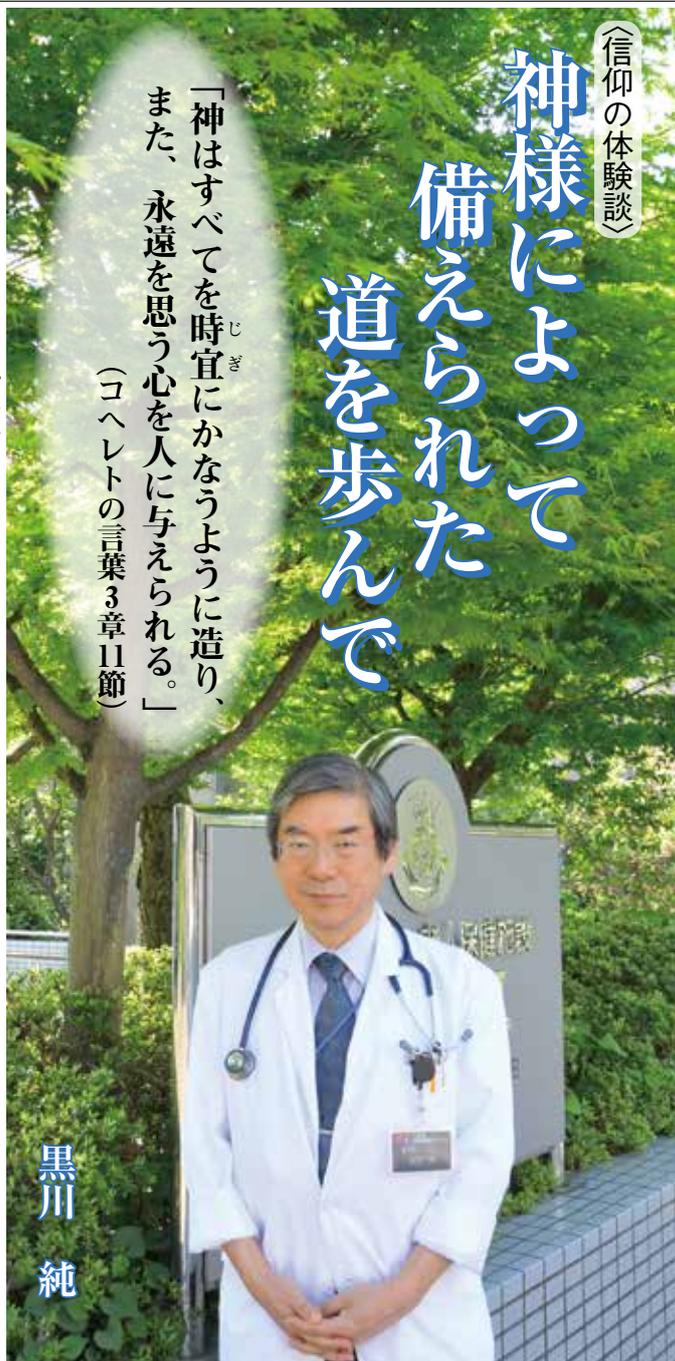
皆様のご健康をお祈りいたします。
(救世軍士官(伝道者))

〈信仰の体験談〉

神様によつて 備えられた 道を歩んで

「神はすべてを時宜じぎにかなうように造り、
また、永遠を思ふ心を人に与えられる。」

(コヘレトの言葉 3 章 11 節)



黒川 純

私は現在、救世軍のブリス記念老人保健施設「グレイス」の施設長をさせていただいています。

私が救世軍の医療の働きに携たずさわって十年になりましたが、ここに至るまでのことを考えると、本当に神様のお導きとしか言いようがない、神様がすべてを備えてくださっていたことを、思わされています。

クリスマスチャン・ホーム

私は、一九四七 (昭和 22 年)、戦後のベビーブームにこの世に生を受けました。いわゆる「団塊だんかいの世代」です。私が生まれた同じ月に

従兄弟いとこが二人生まれ、祖母にとつては、一度に三人の孫ができるというような時代でした。小・中学校は、一クラス六十人のすし詰め教室で、各学年五・八クラスあり、児童・生徒で溢あふれていました。

院の院長をしていました。家は、杉並区荻窪おぎくぼにあり、食前に祈りを献たまげ、日曜は家族そろって教会に行く、という生活でした。両親は共に、教会での活動のほかに「いのちの電話」の相談員などのボランティア活動にも携たずさわっていました。そのような環境の中で、私は何の抵抗もなく、神様の存在を信じるようになっていきました。

にしました。ちょうど、牧師の息子と私が同い年で、子どもたちもたくさん集っていたので、楽しみに通いました。ここには、幼稚科、小学科、中学科とお世話になりました。その教会学校の教師をしてもらったのが、かつて「グレイス」の施設長をされていた故石橋晃あき医師でした。後に教会学校長となりましたが、当時は、確か成蹊学園の生徒だったと記憶しています。

四代目のクリスマスチャンに

高校二年のクリスマスの時に洗礼を受けて、クリスマスチャンとなりました。この

決断をするために、何か特別な体験をしたとか、きっかけがあったとか、きっかけではありません。ただ、「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」(伝道の書 12 章 1 節 口語訳聖書)

という聖書の言葉を読み、一歩踏み出す、という感じだったと思います。父は、私が自分の意思でクリスマスチャンになることを願っていたので、母共々、とても喜んでくれました。こうして私は四代目のクリスマスチャンとなりました。

充実した大学生活

大学では、医学部硬式テニス部に入りました。それ以外に、冬はスキー部に入つてノルディックスキーを、春と秋にはオーケストラで第一バイオリンを最後まで演奏するなど、六年間のキャンパスライフを大いに楽しみました。

教会は、日本キリスト教団弘前教会に客員会員として出席し、青年会に参加しました。また、学生 YMC A 同盟活動にも参加し、ネパール・ワークキャンプに行つて、マナスル山の見えるアンピーバルという村で水場改修工事の手伝いをしました。このキャンプは何年か続いたのですが、この参加者の中から数人が献身して神学校に行き、牧師になられています。

また、大学入学と同時に日本キリスト者医科連盟(以下キ医連と表記)弘前部会に加わりました。当時は、この医科大学にもキ医連の部会があり、医療に携たずさわるクリスマスチャンとして当然のことと考えていましたが、このことが、私の進むべき道を決定づけることになったのです。

医師となつて

医学部を卒業すると、新設の北里大学医学部に病棟医として勤務しました。教会学校でお世話になった石橋医師がその大学の助教授となつておられたのと、まだ卒業生が輩出されておらず、病棟医を全国募集していたので、応募し、合格したのです。

新卒で新入医局員は私一人でしたので、泌尿器科病棟の下働きを一手に任せられ、二十四時間オンコール(いつでも呼び出しに応じられるよう待機している)状態でした。ここで五年間を過ごしましたが、健康が支えられ、託された働きを遂行できたのは、神様のお守りがあつたから、と思つています。

そして、病棟医研修を終了した節目の時、結婚することになりました。相手は、音大のピアノ科を卒業した四代目のクリスチャン。同じような環境で育ち、同じ価値観をもつ伴侶が与えられたことを、神様に心から感謝しました。

その後は、泌尿器科医局の人事で、数年毎に病院を異動しましたが、キリスト教の病院に勤務する機会はありませんでした。その間

も、キ医連の活動には継続して携わっていました。

新しい展開

そして、一九九五年、地下鉄サリン事件の十日後に、急遽、聖路加国際病院に勤務を命ぜられました。当時の病院長は日野原重明医師で、キ医連の創立会員であられました。

この病院は、キリスト教の宣教医師によつてつくられた病院で、チャプレン(病院付牧師)がいらつしやいました。また、院内のクリスチャン医療従事者の集まりがあり、それに参加させていただきました。病院内にホスピス病棟を立ち上げるという大きな動きもあり、私はそのお手伝いもさせていただきました。その後、ホスピスに携わることになり、大きな助けとなりました。

その傍ら、キ医連の常任委員会議長の役目を仰せつかり、多忙な日々を過ごしていました。

救世軍の医療に携わつて

この聖路加国際病院には十年勤務し、二〇〇六年四月、救世軍清瀬病院に移りました。当時、清瀬病院の

院長をされていた村上國男医師がキ医連の大先輩であられ、数年前から、働きを手伝つてほしいとお誘いを受けていたのです。救世軍との関わりは、救世軍士官(伝道者)でキ医連の会員でもあられた故長崎太郎医師と故浅香融医師とのお交わりが最初でしたが、その方々が院長をされていた病院で働かせていただくことになったことに、神様のご計画を感じました。

清瀬病院では、内科と共にホスピス緩和ケア病棟も担当させていただきました。その後、救世軍のブース記念病院に異動になり、ホスピス長として勤務しました。そこは、石橋医師がかつて院長として奉仕されていた病院でした。その後、石橋医師は、ブース病院から「グレイス」に移られ、三年間、施設長としての働き

もされていきました。ブース記念病院には二年間お世話になりましたが、そのチャプレンとのお交わりの中で、人の魂を扱う働きの大切さを痛感させられました。そして二〇一五年六月、「グレイス」に異動になり、施設長になるまでの四カ月間、前任者の大倉透医師から、施設医とはいかにあるべきか、を学びました。大倉医師もキ医連の大先輩です。同じ救世軍の施設です。同じ救世軍の施設ですが、老人保健施設はより在宅療養に近い生活環境を提供する所なので、病院とはかなり違います。良い学びの時をいただいたことを、神様に感謝しました。

これから

最近、とてもうれしいことがありました。私には三

人の娘がいるのですが、その中の三女が洗礼を受けて、五代目のクリスチャンとなりました。信仰の継承がなされていることを、心から神様に感謝しています。現在、週二回、朝礼で聖書のお勧めをしています。準備をする中で、いかに聖書を読んでいなかっただかを痛感させられていますが、まず私自身が御言葉から恵みや慰めを受けて、それを利用者さんにお分かちしたいと思つています。

現在、四人に一人が六十五歳以上という超高齢化社会となり、老健施設の役割の重要性は増してゆくばかりと思われまふ。今、グレイスでは百人弱の入所者さんと三十人前後の通所者さんをお預かりして、在宅療養を目指し、医療ケアと生活サービスを提供して

います。私は、この老いを生きるにはどうすればよいか、について、利用者さんと一緒に考え、学んでいきたいと願つています。

(日本キリスト教団荻窪教会所属)

クリトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。

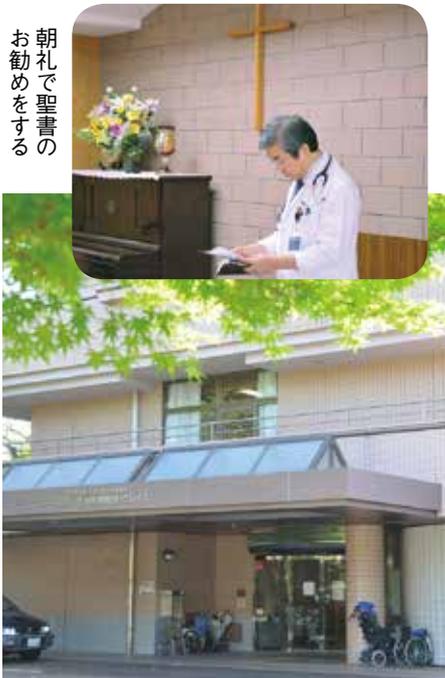
□ キリスト教についてもっと知りたいです。

□ 『ときのことえ』の購読を申し込みます。

聖書の言葉

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。生まれる時、死ぬ時、植える時、植えたものを抜く時、殺す時、癒す時、破壊する時、建てる時、泣く時、笑う時、嘆く時、踊る時、石を放つ時、石を集める時、抱擁の時、抱擁を遠ざける時、求める時、失う時、保つ時、放つ時、裂く時、縫う時、黙する時、語る時、愛する時、憎む時、戦いの時、平和の時。」

(コヘレトの言葉 3 章 1-8 節)



朝礼で聖書のお勧めをする

裏
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナード (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈日本〉 熊本地震被災地支援



4 月 14 日 21 時 26 分、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード 6.5 の地震が発生しました。最大震度 7 が観測され、16 日未明、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード 7.3 の地震が発生し、最大震度 7 が観測されました。

震源に近い益城町を中心に、49 人が死亡し、地震関連の死者は 67 人に上っています。未だ 1 人の行方不明者があり、避難所 342 箇所、13,883 人が避難生活を送っています。(5 月 8 日現在)

救世軍では、4 月 22 日、熊本県の益城町で給食支援をおこないました。避難所となっている、益城中央小学校で、手作りの豚骨ラーメンとチャーハンを 600 セット準備し、益城中央小学校に避難している人々に 300



セットを提供しました。また、残り 300 セットは、この支援の仲介をしてくださった地元の牧師によって、熊本市内の山ノ内小学校に避難している人々に提供されました。



〈エクアドル〉 地震の被災地支援

4 月 16 日、マグニチュード 7.8 の地震が、南米エクアドルで発生しました。地震による犠牲者は、少なくとも 660 人に上っており、今なお 58 人が行方不明、約 2 万 6 千人が避難生活を送っています。(4 月 27 日現在)



救世軍は、マンタ、ペデルナレス、グアヤキル、ポルトビエホにおいて、路上で過ごさざるを得ない人々に食べ物と飲用水、必要と思われる品物を提供しています。被害状況は深刻で、ほとんどの商店は閉じている状態です。



若い救世軍のメンバーで編成されたチームは、支援の届いていない、町中から離れた地域を訪れ、家を失った 500 人の人々がテントなどで避難しているのを発見しました。それらの人々と時間をかけて話し、祈りや、希望をつなぐ言葉を届けることができました。

その後、4 月 26 日には、地震の被害のあった地域で洪水が発生。少なくとも 4 人が死亡したと報道されています。引き続き短期、中期、長期的な支援が検討されています。

世界の救世軍の指導者

アンドレ・コックス大将を迎えておこなわれる

2016 救世軍全国大会

◆救世軍チャリティーコンサート

10 月 21 日 (金) 18:30 (要チケット)
東京オペラシティ コンサートホール
(東京: 初台駅下車)

◆公開集会

10 月 22 日 (土) 14:00
日本教育会館 一ツ橋ホール (東京: 神保町駅下車)

◆パレード 救世軍ブラスバンドとタンバリン

10 月 22 日 (土) 17:00
東京: 神田神保町界隈

◆大会聖別会 (礼拝)

10 月 23 日 (日) 10:00
日本教育会館 一ツ橋ホール

音楽ゲスト: アメリカ西部スタッフ・ソングスターズ (合唱団)

集会のご案内

公開集会と大会聖別会には、どなたも参加できます。

救世軍とは

The Salvation Army

イエス・キリストを唯一の救い主と信じる、プロテスタントのキリスト教会です。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865 年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指して、働きを始めました。現在は、世界 127 の国と地域で、助けを必要としている人々のニーズにこたえながら、神の愛を伝えています。

日本での働きは、1895 (明治 28) 年に始まり、現在は、43 の小隊 (教会にあたる) と 12 の分隊 (伝道所にあたる)、19 の社会福祉施設、2 つの病院 (ホスピス併設) を通じて働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者に対する救援及び復興支援などをおこなっています。

救世軍ブース記念病院

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-40-5

TEL 03-3381-7236 (代表)

<http://boothhp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、消化器内科 (内視鏡)、循環器内科、神経内科、精神科、整形外科、皮膚科、眼科、リハビリテーション科、ホスピス外来、漢方内科、各種健康診断 199 床 (療養病棟 147 床、一般病棟 32 床、緩和ケア病棟 (ホスピス) 20 床)



救世軍清瀬病院

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘 1-17-9

TEL 042-491-1411

<http://kiyosehp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、循環器科、神経内科、呼吸器内科、皮膚科、リハビリテーション科、緩和ケア内科 142 床 (療養病棟 117 床 [うち介護保険病床 43 床]、緩和ケア病棟 (ホスピス) 25 床)



両病院とも (公財) 日本医療機能評価機構認定病院です。清瀬病院は病院機能評価付加機能 (緩和ケア機能) 認定も取得。両病院とも、どなたでもご利用いただけます。

ブース記念老人保健施設

グレイス

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-40-15

TEL 03-3380-1248

併設: 杉並区地域包括支援センター「ケア 24 和田」、ブース記念ケアマネージメントセンター和田、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ

特別養護老人ホーム (ユニットケア型)

救世軍恵みの家

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-41-11

TEL 03-3381-7243 (代表)

ユニットケアという、少人数の家族的な雰囲気の中でケアがなされ、食事や入浴、行事など、日常生活がユニット毎におこなわれています。



● 両病院及び「グレイス」、「救世軍恵みの家」で看護師、介護職を募集中

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部四〇円 (六六円)
十五日号一部六〇円 (六六円)
クリスマス特集号 (十二月一日号) 一部一〇〇円 (七七〇円)
一年分 (二六〇円) 送料七五〇円
振替 〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 ケネス・メイナード 齋藤 恵子

電話 東京 (03) 3377-0881

発行所 救世軍本営 図書印刷株式会社